

## 「武漢の日本食事情」

武漢市は、在籍人口が850万人、流動人口を加えれば、1千万人を超えます。日本人の数は、この2年間のホンダ、日産自動車関係の部品メーカーの進出により増えてきており、常駐の日本人が約200人、出張者などを含めると常時400人くらいです。3、4年前と比べ、日本料理店は1店舗から16店舗に増えてきていますが、中華料理店が2000店あるのと比べると、日本料理店が少ないと思われます。

原因といえば、武漢市民は気候の関係で味の濃い、塩辛い物が好きだからです。また、内陸にあるということで、新鮮な海魚類が輸送の関係で簡単に入手できないことも一因と思われます。

しかしながら、現在健康に留意する人は多く、その点で日本食に対する関心は高まっています。

## 日本料理店紹介



高級日本料理店「大関」

武漢の日本料理店は、ほとんど刺身、寿司、焼き物、揚げ物、鍋物、定食、麺類等の総合メニュー（写真付きで、日本語、中国語で表記）が用意されています。料理長の腕はかなり

バラつきがあり、従業員はある程度日本語が話せる人が多いと言えます。

## 高級日本料理店

本格的な日本料理といえば、シャングリラホテルの「大関」ですが、値段はかなり高く、ランチの豚骨ラーメン一杯でも1500円程度かかります。大関・八海山・白鶴・久保田・松竹梅などの日本酒の銘柄は比較的多く、いいちこ焼酎もあります。座席は鉄板焼専用席も含め100人前後対応できます。そのほかには、晴川ホリデーインの「京都」、最佳西方五月花大酒店の「花一番」も落ち着いた雰囲気です。

## 一般日本料理店

武漢市民がよく行く日本料理店は、焼肉で名声が高い開店5年になる「一番館」です。焼肉店といっても、総合メニューを揃えています。筆者は行く度に、牛タンとお好み焼きを注文します。

江漢路歩行者天国付近にある「金桜子」、「倉橋家」、「金田日本料理」、「カレーハウス」は、定価の安さ、品物の豊かで武漢の市民に歓迎されています。

2階建ての「漢和京都」は100人以上収容できる現在武漢市内で一番大きな日本料理店です。飲み放題・食べ放題のコースもあり、テイクアウトもできます。また姉妹店の



居酒屋風日本料理店「華泉」と看板娘の恵美さん

居酒屋風の店「華泉」は、看板娘の恵美さんが日本語も堪能で、常連さんの顔をよく憶えており、割引してくれます。回転寿司店は、2店舗あります。

## 食材の調達、デパートの寿司コーナー

武漢の日本料理店の経営者は大部分が中国人です。食材のほとんどは中国国内で調達されています。華南海鮮市場には、日本のタレ、醤油など調味料があり、デパートの輸入品コーナーでも一部調達できます。武漢で入手し難い品物は、上海の専門店から仕入れます。

武漢の大手デパートでは、大体お寿司を売るコーナーがあります。海苔巻、太巻などの巻物が多いですが、サーモン、穴子、ウニ、海老などのお寿司もあります。紫色の章魚のお寿司を見たことがありましたが、どうも食べる気になれませんでした。また、お米がよくないからか、握り方がよくないからか、箸でつまむ事が出来ません。

## 健康的な料理として人気

武漢の生活水準向上に伴い、食に関して値段より健康に良い食材、調理法に留意する人が増えてきました。季節に合わせた旬の食材を活用し、食材の天然鮮度と栄養分を十



焼肉で人気の「一番館」

分に保留し、魚などの海鮮類を主とする日本料理は健康的な料理のモデルと言えます。現在、てんぷら、刺身等の日本料理は既に大手中華料理店の健康メニューに登場しています。これからは日本食に対する関心もますます増えていくと思われます。

## 問合せ先

武漢市でのビジネスに興味ある方は、大分市商工労政課へお問合せください。

大分市商工労政課 工業係 TEL 097-537-5625

## 「第1回中国中部文化産業博覧会」

### 国家レベルの文化産業博覧会中国中部(武漢)で初めて開催

10月27日から29日「第1回中国中部文化産業博覧会」が湖北省の省都武漢市で開かれました。この博覧会は深圳国際、西部、東部文博会と並ぶ、4大国家クラス産業博覧会の一つに位置付けられており、今回初めて中部(山西、河南、安徽、江西、湖南、湖北の中部6省)地域で開催されました。

メイン展示場のほか、デザイン・アニメ・ゲーム、図書・電子出版物、美術工芸品、服飾文化等7つの小会場も市内に設けられ、国内参加企業は1200社、海外からはアメリカ、フランス、日本等20余りの国から参加がありました。展示のほかに、本や雑誌などの版權やデジタルコンテンツの販売が行われ、また、各省から来た地元劇団等が、芝居や武術などを毎日上演、河南省の少林寺カンフー、湖北省の武当山太極拳も登場し、多くの人たちで賑わいました。

#### 大分市から2ブース出展



武漢市の友好都市として、大分市が招聘を受け、大分市と三和酒類(株)が出展し、ブースでは多くの方が来場し活況を呈しました。

大分市のブースでは、宣伝ポスター、観光パンフレット、記念品を送って頂き、当事務所(大分市交流拠

点)が代行で出展しました。大分市は昨年9月に武漢で観光プレゼンテーションを行ったこともあり、地元の旅行会社30数社が来場し、大分の観光への関心の高さが伺えました。

展示現場で日本の雰囲気を出すため、ハッピーを2着壁に飾り、ハッピーをスタッフ全員で着ました。大分市出身の留学生も手伝いに来ました。ハッピーを買いたいとの要望が多数あり、売れませんと断るのに苦労しました。来場した方は、大分に興味がそそられるものの、直行便がなければ、交流が不便だとため息をこぼしていました。

三和酒類(株)からは中国語が堪能な社員2名が参加しました。試飲コーナーでは、いつも大勢の人に囲まれ、試飲者は、三和さんの予想を上回り、紙コップを2回買い足しました。いいちこ焼酎は中国での販売許可証を取得していますが、残念なことに武漢においては、大手スーパー数店にしかまだ売られていません。お酒の好きな人が多い中部6省の大市場が開拓できれば、大きなビジネスチャンスになることは間違いないでしょう。

#### 大分の観光資源、民芸品、衣装は良い反響

大分の観光資源、民芸品、衣装は大変好評でした。武漢市だけでなく、その他の省からも交流の要請が来ました。当事務所としては、今後大分をもっと宣伝し、大分の美しさをもっと多くの中国人に伝え、大分へ観光や留学、ビジネス等の交流に活かせるよう頑張っていきたいと思います。

#### 歴史や風土を尊重したなお一層の交流を

三和酒類株式会社 香港駐在 岡田 博道



三和酒類(株) 岡田氏(一番左)

国家級文化博覧会の記念すべき第一回は盛大な開会セレモニーで始まり、中国中部地方の特色あふれる催し物と満員の来客で大変な賑わいでした。会場内では大分市と武漢市の永年培ってきた密接な友好関係を表すかの如く入口付近の特等席に弊社ブースを設けさせて頂き、1日500人強のお客様に向けて存分にPRする事が出来ました。お客様は全て中国人という事で、中国語商品説明文と製造工程紹介ビデオ、中国語を(多少?)話せる職員2人体制で臨みました。弊社商品を知るお客様は皆無であった為、まずは清酒と焼酎の違い、日本で焼酎が飲まれる風景等をご紹介しながら実際に商品をお試し頂きました。男女問わず積極的に試飲を希望され、香味に関しても「香りが上品」「飲みやすい」等高評価を頂く場面もありました。現地で親しまれる酒に比べ度数が低い事も健康的な印象を与えたようです。購入を希望される方も多く、ついには「本日は宣伝のみで販売は行っておりません」と貼紙でお知らせするというハプニングも。各方面に渡ってお客様と直にコミュニケーションをとる事で販売活動に繋がるヒントも得る事ができました。引き続き酒を通じて、製造方法や趣向の違いだけでなく互いの歴史や風土を尊重したなお一層の交流ができればと思います。